

# 海蔵川縁に公園完成

## 大いに利用しましょう

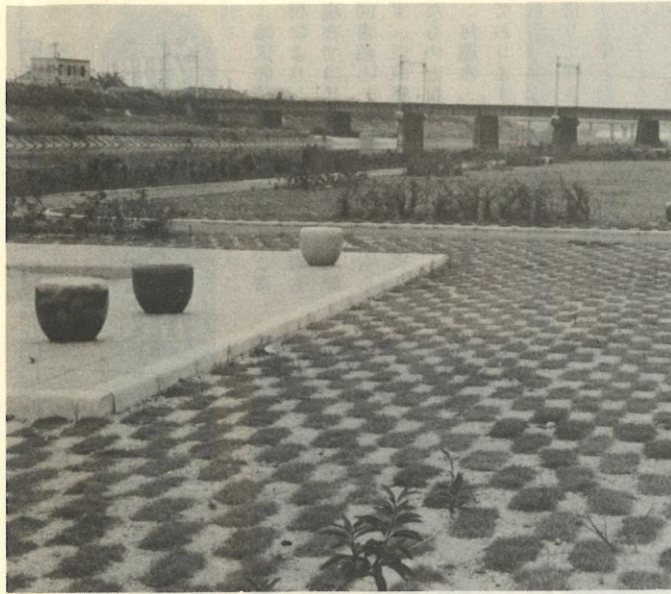
海蔵川緑地整備事業として、河川敷の公園化が進められていますが、この程昭和五十四年度分として、一号線海蔵橋、近鉄線の間の、川の北側(万古町と三ッ谷町地内)が完成しました。

さん方、大いに利用、活用して下さい。

尚、河川は治水、利水が本来の目的であるため、増水時に支障をきたす柵類を設けることが出来ません。低木類で囲ってはあるものの、ともすれば子どもたちが川へ出ることも考えられますので、平素危険な水遊びに

対する注意をして戴きたいと、市役所公園緑地課では呼びかけています。

引き続き今年度は、その南側及び近鉄線、末永橋間の両側の工事が予定されています。



完成した海蔵川河川敷公園

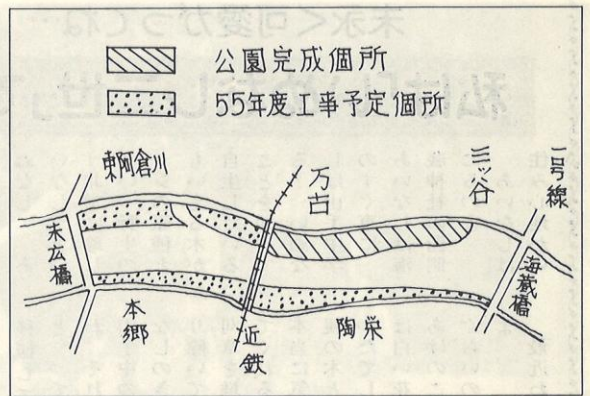
# 西阿倉川浄覚寺の鐘の音

## 時を告げて三十年

「オーイ、今何時だ」「そうね、先程お寺の鐘が鳴ったから十一時二十分頃ね」「そうか、もう昼か」

先日の日曜日、御主人は庭の手入れ、奥さんは洗濯物の片付けをしている庭先での会話の一部です。

今日は六月十日の「時の記念日」に因んで、時を告げる事三十年余、テレビ、ラジオの普及している今日でも尚、町内の皆さん方が、知らず／＼の間にも頼りにし、又親しみ続けて来た梵鐘の話を紹介しましょう。



浄覚寺鐘楼



西阿倉川町地内のお寺、浄土真宗西本願寺派、海蔵山浄覚寺のお寺の梵鐘も、御多分にもれず、戦時中供出で、お国の為に動員され、住みなれた鐘楼と別れを惜みつつ一路戦場(石原産業)へと出陣をしました。

が間もなく終戦となりました。

その後、戦場(溶鉱炉)行きの列車に乗り遅れた戦友(鐘)が石原産業で野営をしている、その中に浄覚寺の名入の鐘も居たと言う話が、風の便りに西阿倉川町の門徒の方の耳に入りまし

戦死? をしたと思っていたのが野営をしていると聞き、早速面会に行きましたが、姓名は浄覚寺でも、出身地が違った人? ちがひ、すでに海蔵山浄覚寺の梵鐘は立派にお国のために散った後でした。

現在の梵鐘は、その後、昭和二十四年に門徒の方々の御協力

で新しく造られた梵鐘です。それ以来今日まで、雨の日も風の日も、四季を通して朝の五時、昼の十一時と日に二回、梵鐘を鳴らし続けておられます。梵鐘を鳴らす事が仏行の一環か

どうかわかりませんが、当時の農家の方が野良仕事で、又今日でも、前述した様に一般家庭の日常生活の中にも、時報としてこの梵鐘の音を頼りにして居る事は事実です。

日本の平和が続く限り、この梵鐘の音が鳴り続ける事でしよう。御住職及び御家族の皆様、本当にご苦労さまです。

(H・N)